

\*\*\*\*\* メリークリスマス 1998 \*\*\*\*\*

ご無沙汰しております。皆さんお元気でお過ごしのことと思います。

皆さん、ご存じのように今年はメルボルンから書いています。長年米国で暮らしてきましたが、日本と米国の間を行ったり来たりはするものの、第三国で本格的に暮らすのは初めての経験で大変面白く価値あるものになりました。オーストラリアは英語圏ですので、言葉の心配がなく、米国資本もたくさん進出しているのです、表面的な違和感は全くありませんでした。ところが、似ているものですから、すべてのものが同じだと思って行動し始めると、すこしずつ違うところがあって、いくつか発見がありました。そんな発見を通してオーストラリア人とその社会の気質を垣間見ることができます。学生も含めて、オーストラリア人は全般的におとなしいという印象を受けます。先生方もアメリカから比べると相手の気持ちや言い方に気を付ける反面自分の意見をあまり言わない人が多く、どちらかというとも日本的だと思いました。もっとも、これは学部が日本語学の学部であることと米国に住んでいる人間の言っていることですから、あまりあてにならないかもしれません。日本語の学生は 1000 人ぐらいいてひしめいていますし、同じような名前が多い(Cheng, Chen, Chan, Cheung, Chong, Chun など) ため、いつものように名前と顔を一致させるのは用意ではありませんでした。

二月に真冬の中西部から真夏のメルボルンに着き、家探しや家財道具をそろえ、生活が始まりました。久しぶりの都会の生活、やはり都市の持っているパワーには魅力があります。メルボルンは物だけでなく、文化的な刺激が多い町です。ニューヨークで見られなかったミュージカルやコンサートがこちらで見られました。また、レストランがおいしいことでも有名です。確かに、旨いです。さらにオーストラリアには BYO というすばらしいシステムがあります。これは Bring Your Own (自分で持ってくる) の略でワインやビールなどをレストランに持ち込んでいいのです。ですから、気に入ったワインを酒屋で買って、レストランに行き、「これをお願いします」と言うと開けて出してくれます。

旅行は近いところではフィリップ島のペンギンパレード（夜巢に帰ってくるペンギンを海岸に作られたベンチに座って待つ）やグレートオーシャンロードに行きました。グレートオーシャンロードというのはメルボルンの西側にある海岸沿いの道でここではオーストラリア大陸が海に落ちているような光景を目にすることができます。そして、崩れなかった岩が海の中にそびえています。米国でもカリフォルニアの海岸線など美しい所は随所見られますが、ここのは今までに見たことのないものでした。

七月には日本からはおなじみのブリスベンとケアンズに行って、さらにダーウィンというところまで足を延ばし、カカドゥ国立公園という所に行きました。ブリスベンのゴールドコーストは本当に日本人向けの商売をしているという感じで、日本からの観光客の多さが身にしみました。オーストラリアのフロリダという感じで色々遊べるところは作ってありますが、自然を楽しむというではありませんでした。ケアンズでは始めてダイビングを体験しました。一味は都会育ちなのでグレートバリアリーフの美しさに感動して、はまってしまい、メルボルンに戻ってからダイビングの免許を取る決心をしました。由紀子は海のそばで育ちましたから、きれいだとは思っても、全く前に見たことのないものではないので、冷静さを保つことができました。その後、ダーウィンから行ったカカドゥ国立公園は圧巻でした。ここは気候も風景も動物たちもアメリカのものとは違っていました。沼地に育っているスイレンやその中を歩き回っている足の大きな水鳥など、さまざまなものに出会いました。もちろん、大きなワニも昼寝をしていました。

10月にはエアーズロックに登ってきました。オーストラリアの観光地として有名な所で、アリゾナやニューメキシコのあたりとよく似た光景でした。煉瓦色の土が印象的でした。でも、初めてモニュメントバレーやグランドキャニオンに足を踏み入れたときのような「なんだここは」という感じは受けませんでした。

さて、11月です。一味がダイビングの免許をとったこともあり西オーストラリアへ主にダイビングの旅に行ってきました。まずはパースから南へ3時間ほどの所で沈没船のあるところでダイビングしました。由紀子は鍾乳洞めぐりで一日中歩き回り疲れて帰ってきました。デモ、この辺の鍾乳洞は人の手がかかっていないせいか、とてもきれいだということでした。パースに戻ってそこからカナーボンという小さな町まで飛行機で行き、車でエクスマウスというダイビングのためにあるような町に行きました。ここは3月から5月にかけて10メートルほどのジンベイザメと泳げるというのでその筋では有名になった所です。ジンベイザメを見ることはできませんでしたが、何メートルもあるタラ（グルーパー）等がいて圧巻でした。その後、コーラルベイというおそらく今まで行った珊瑚礁では最もきれいな海に行きそこではマンタレイという3メートルほどもあるエイと一緒に泳ぐことができました。このエイは海中で宙返りを繰り返しながら餌をとる習性があり、われわれの目の前（下）でそれを見せてくれました。これは本当にすごい光景でした。その後は、モンキーマイアという所で野性のイルカにあってきました。ここではイルカが海岸まで毎朝やってきて、餌を少しもらってまた帰っていきます。さわってはいけないのですが、本当に足元までやってきます。今回は生まれてからまだ3週間

ほどしかたっていない子供もいっしょについてきていました。イルカでも赤ちゃんは泳ぎ方が下手で、なんとも可愛かったです。

仕事のことが何も書いてないと思われる方もあるかもしれませんが、仕事はしています。牧野先生との共著「なかま1」が出版され、この秋から米国で使われ始めました。来年はオーストラリアでも使われ始めます。今年是一年「なかま2」の原稿に関して出版社と鉛と鞭の戦いをしてきました。ただ、よく学びよく遊ぶという今年的生活態度のおかげか、今年は締切日に遅れることも殆どなく今までで一番早く教科書のプロジェクトが進んでいます。「なかま1」には七年かかったことを考えると、フィールドテストも含めて「なかま2」が三年で終わるのは奇跡に近いと言えます。「なかま2」は来年の米国の新学期までに出版される予定です。今までに書いた原稿は七千ページを越えています。学会にも2、3出ましたし、一味が投稿した論文も出版が決まりました。由紀子は今月中に一つ論文を書き上げようとしています。

一味のゴルフは二年目に入り、週に一度のペースを守って一年間通しました。でも、スコアはなかなかよくなり、難しい難しいと言っています。今年のパートナーは南アフリカ出身の中国系オーストラリア人のリチャードさんとゴッドフリーさんです。（南半球ではめずらしくありません。）二人ともとてもいい方達です。

そんなわけで、もう12月。そろそろ帰る準備を始めています。以前は学会にかこつけての旅行ばかりしていたようで、本当に楽しむ旅行はあまりしなかったとこちらに来て気がつきました。その反動で、旅行ばかりしたのかもしれませんが、でも、これからもこれは続けようと思います。オーストラリアでの1年はとても勉強になりました。これからの私たちの生き方に大きな影響を与えてくれたことには間違いありません。それでは皆さん楽しいクリスマスとよいお年をお迎えください。

\*\*\*\*\* 頌春 1999年 \*\*\*\*\*